

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

平成30年7月25日※1  
(前回公表年月日:平成29年9月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地												
専門学校 久留米リハビリ テーション学院	平成15年3月31日	学院長 姫野 信吉	〒834-0102 福岡県八女郡広川町大字水原1541番地 (電話) 0943-32-7700												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地												
医療法人 八女発心会	平成4年3月5日	理事長 姫野 信吉	〒834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代2320番地 (電話) 0943-32-7111												
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士										
医療	医療専門課程	作業療法学科		—	平成19年文部科学省 告示第27号										
学科の目的	本校は、教育基本法、学校教育法、理学療法士及び作業療法士法に基づき、医療分野に関する知識・技術を教授するとともに良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かなスペシャリストの養成を目的とする。														
認定年月日	平成29年2月28日														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技								
4年	昼間	3,585	2,085時間	495時間	1,005時間	0	0								
単位時間															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数										
160人	153人	0	7人	19人	26人										
学期制度	■前期:4月1日～9月第4週 ■後期:9月第5週～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験・履修状況等を基にして総合的に行い、優・良・可・不可をもって表し、可以上を合格とする。										
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月11日～8月20日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	4年の修業年限以上を在籍し、履修すべき全科目の認定及び卒業試験に合格し、課程修了を認定されること。出席が当該学年において各科目の履修すべき授業時数の3分の2を満たしていること。										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人および保護者との電話連絡、面談			課外活動	■課外活動の種類 自治会、学園祭、スポーツ大会、ボランティア活動 ■サークル活動: 有										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 医療施設、介護施設等 ■就職指導内容 就職セミナー開催 ■卒業生数 : 37 人 ■就職希望者数 : 36 人 ■就職者数 : 36 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 97 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>作業療法士国家試験受験資格</td> <td>②</td> <td>37人</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	作業療法士国家試験受験資格	②	37人	36人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数												
作業療法士国家試験受験資格	②	37人	36人												
中途退学の現状	■中途退学者 8名 平成29年4月1日時点において、在学者158名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者150名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 成績不良、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 面談や学科会議、教員会議での情報共有による対策			■中退率 5.1%											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 入学時特別奨学金、指定校推薦特待生奨学金、遠方者特別支度奨励金、兄弟姉妹入学奨学金、入学後特別奨励金 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無														
当該学科のホームページURL	<a href="http://www.kurumereha.ac.jp">http://www.kurumereha.ac.jp</a>														

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育課程で臨床実習は945時間(3年次135時間、4年次810時間)、学外の実習施設で実施する。
- ・教育課程編成委員の企業委員には、実務に関する知識・技術・技能などについて知見のある企業や医療福祉施設等の役職員、業界又は職種における人材の専門性に関する動向など専門的な事項について知見のある業界団体の役職員、教員の専門性の維持向上を目的とした研修等を行う職能団体の役職員、専攻分野に関する学会や学術機関等の有識者、国または地域の地方公共団体等の関係部局の職員等から選任する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ・教育課程編成委員会では、実践的かつ専門的な職業教育を実施するために、専攻分野に関する施設等の意見や要請等を活用し、教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む)を行うことを運営規程で定める。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
梶原 浩史	公益社団法人福岡県理学療法士会 医療法人原鶴温泉病院	H30年4月1日～H31年3月31日	1
北嶋 秀一	chanson coco yumi	H30年4月1日～H31年3月31日	3
小笹 和輝	医療法人向陽会 筑後川温泉病院	H30年4月1日～H31年3月31日	3
坂本 祐一	特定医療法人社団宗仁会 筑後吉井こころホスピタル	H30年4月1日～H31年3月31日	3
佐藤 志津子	福岡県作業療法士協会社会 医療法人天神会 古賀病院21	H30年4月1日～H31年3月31日	1
松木 絵季香	医療法人繁桜会 馬場病院	H30年4月1日～H31年3月31日	3
今福 一博	専門学校 久留米リハビリテーション学院	-	副学院長兼事務長
大坪 健一	専門学校 久留米リハビリテーション学院	-	教務部長
井ノ口 征幸	専門学校 久留米リハビリテーション学院	-	作業療法学科学科長
野中 嘉代子	専門学校 久留米リハビリテーション学院	-	理学療法学科学科長代理
長 真里	専門学校 久留米リハビリテーション学院	-	作業療法学科教員
荒木 康浩	専門学校 久留米リハビリテーション学院	-	理学療法学科教員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

平成30年度

第1回 平成 30年 7月 26日(木) 15:00～17:00

第2回 平成 30年 9月 27日(木) 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(意見) 実習前はCCSについて、学院ではどのような指導をしているのか。

→(活用) 実習についてチェックリストやデイリーノート・ケースノートの使い方、目標の立て方等を指導したり、実技系の科目の中でも触れて実技試験を複数日かけ実施する。

(意見) 所属している施設でCCSの説明はしているが、まだ理解は十分に得られていない。しかし実習生の表情などからCCS実習の経過は良好そうだと病院スタッフは察し、CCSはいいのかもという意見がでた。

→(活用) 今も中川先生がこの分野をよくしていこうという動きの中にあり、勉強会でも概念で話される事も多い。中川先生の本を読んでもらったり、資料だけでなくより多くの関係者に中川先生の動画もみて頂ければ、誤解なくこういうものかと理解につながるので今後も啓発に努める。

(意見) 精神科での集団療法や作業等を見て実際には学生はどう思っているのか。又、学校でどういう報告をしているのか。精神科のOTはこんなものかという感じで終わっているのではないか。精神科としてはケースノートを作りながら、一人の患者様に焦点を絞って深めていくやり方がお互いに理解できて一番いいと思うので、ケースしながらレポートを作っていきたい。

→(活用) この症例でこの学生であればレポートでアウトプットさせた方が考えを整理できる、ということであれば、効率的な学習を進めていけるような形態を検討していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

免許取得後3年以上業務に従事した作業療法士が実習指導者として実施可能な病院、診療所、老人保健施設を選定している。また、生徒数と指導者数の比率は2対1程度の体制がとれ、実習を行う上で必要な医療機械器具を備えている施設を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

実習前に実習指導者会議を開催し、学外施設の実習指導者に本学院の指針や目的を示し、臨床実習の連絡調整を行う。実習期間中は担当教員が施設訪問をして状況や問題点等を確認し、実習指導について協議する。実習後は実習指導者の評価を踏まえ、学院にて成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	仕事のすばらしさや感動、責任の大きさを実感し、チーム医療の一員として組織の中で連携を図りながら実際の業務を学び、専門職として必要な知識・技術・応用的能力を展開させることを目的とし、実習指導者のもと学外施設で実施する。 「対象者の評価を行い、対象者に適した課題が抽出できる」を到達目標とする。	医療法人八女発心会姫野病院、筑後川温泉病院、医療法人社団石坂脳神経外科、医療法人繁桜会馬場病院、特定医療法人社団筑後吉井ホスピタル 総数33施設
臨床実習Ⅱ	仕事のすばらしさや感動、責任の大きさを実感し、専門職として必要な知識・技術・応用的能力を展開させることを目的とし、学院内で培ってきた人間性をもとに、チーム医療の一員として組織の中で連携を図りながら実際の業務を学び、実習指導者のもと学外施設で実施する。 「基本的作業療法がある程度の助言・指導のもと行えるレベル」を到達目標とする。	医療法人八女発心会姫野病院、特定医療法人社団筑後吉井ホスピタル、医療法人弘恵会ヨコクラ病院、医療法人向陽会筑後川温泉病院、医療法人社団石坂脳神経外科 総数51施設

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

専攻分野における実務に関する知識・技術・技能の修得・向上に関する研修、又は授業及び学生に対する指導能力等の修得・向上に関する研修等を、学院長又は学科長が所属教務職員の意向を参酌し、個々の到達目標をたて、その目標に沿って年間研修計画をたてるとすることなどを教職員研修規程で定める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

福岡県作業療法協会筑後ブロック分野別研修会・対象 協会会員・作業療法士、他・身体障害、精神障害、高齢期、発達障害の4分野で各研修会(平成29年7月2日)

理学療法士作業療法士言語聴覚士養成施設教員等講習会・対象 養成施設教員・高度な知識・技能習得(平成29年8月21日～平成29年9月9日)

認知症作業療法推進委員会・対象 県士会認知症OT推進委員・講演、活動報告、グループワーク(平成29年11月18日、19日)

② 指導力の修得・向上のための研修等

クリニカル・クラークシップ研修会・対象 臨床実習指導者と養成校教員・臨床スキルの獲得の確認(平成29年6月24日)

教育機関におけるICT活用について・対象 一般社団法人全国リハビリテーション学校協会会員・ICT利活用についてとICT教育の効果について講演(平成29年10月21日)

CCS実習に関する意見交換会・CCS形式による実習の展開状況報告(平成29年11月25日)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

第1回筑後ブロック分野別研修会・対象 福岡県作業療法協会会員・就労支援に関する援助内容と作業療法士に求められることについて(平成30年7月8日)

② 指導力の修得・向上のための研修等

クリニカルクラークシップ実習に関する説明会・対象 実習教育者、教員・臨床実習の概要について、CCS実習について(平成31年1月19日)

OSCE研修会・対象 理学療法士作業療法士養成校教員・学生の臨床技能向上及び理解の向上(平成30年9月1日～2日)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会を設置し、学校関係者評価委員に専攻分野の企業等の役職員を参画させている。また、自己評価結果に基づいた学校関係者評価を実施し、教育活動やその他学校運営の改善に活かすことなどを教職員研修規程で定める。学校関係者評価委員会は年1回実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<input type="checkbox"/> 理念・目的・育成人材像は定められているか <input type="checkbox"/> 学校の特色はなにか <input type="checkbox"/> 学校の将来構造を抱いているか
(2)学校運営	<input type="checkbox"/> 運営方針は定められているか <input type="checkbox"/> 事業計画は定められているか <input type="checkbox"/> 運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか <input type="checkbox"/> 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか <input type="checkbox"/> 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<input type="checkbox"/> 教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界のニーズレベルに照らして、また教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか <input type="checkbox"/> カリキュラムは体系的に編成されているか <input type="checkbox"/> 各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか <input type="checkbox"/> 授業評価の実施・評価体制はあるか <input type="checkbox"/> 育成目標に向けた授業を行うことができる要件を備えた教員確保をしているか <input type="checkbox"/> 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか <input type="checkbox"/> 資格取得の指導体制はあるか <input type="checkbox"/> 教職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<input type="checkbox"/> 就職率の向上が図られているか <input type="checkbox"/> 資格取得率の向上が図られているか <input type="checkbox"/> 退学率の低減が図られているか <input type="checkbox"/> 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
(5)学生支援	<input type="checkbox"/> 進路就職に関する支援体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生相談に関する体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生の健康管理を担う体制はあるか <input type="checkbox"/> 課外活動に対する支援体制は整備されているか <input type="checkbox"/> 学生の生活環境への支援は行われているか <input type="checkbox"/> 保護者と適切に連携しているか <input type="checkbox"/> 卒業生への支援体制はあるか
(6)教育環境	<input type="checkbox"/> 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか <input type="checkbox"/> 学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか <input type="checkbox"/> 学内外の実習施設について、十分な教育体制が整備されているか <input type="checkbox"/> 防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<input type="checkbox"/> 学生募集活動は適切に行われているか <input type="checkbox"/> 高等学校等に対する情報提供は適切に行われているか <input type="checkbox"/> 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか <input type="checkbox"/> 学生募集活動において教育成果は適切に伝えられているか <input type="checkbox"/> 学納金は妥当なものになっているか <input type="checkbox"/> 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか
(8)財務	<input type="checkbox"/> 中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか <input type="checkbox"/> 予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか <input type="checkbox"/> 財務について会計監査が適正に行われているか <input type="checkbox"/> 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	<input type="checkbox"/> 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか <input type="checkbox"/> 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか <input type="checkbox"/> 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか <input type="checkbox"/> 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	<input type="checkbox"/> 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか <input type="checkbox"/> 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
(11)国際交流	<input type="checkbox"/> 留学生の受け入れ・在籍管理にお適切な手続等がとられているか <input type="checkbox"/> 留学生の学修・生活活動指導について学内に適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

(意見) 評価実習で初めて患者と接するということもあるが、そこが始まりでは差が大きいので。

→(活用) 当学院は医療法人立であるので、法人内施設で低学年のうちから十分に現場での体験ができるので今後も低学年からの実習を多く取り入れていく。

(意見) 病院で手技を問われたことがあるが、現場のPTが今でもそこを追及して成長しようとしているなかで、学生のうちはそういった事の習得というよりやはり基本的なことを徹底的に指導してほしい。

→(活用) 患者様が求めていることを提供できるようにコミュニケーション能力を含め必要な検査が適切にできるなど基礎の部分の教育を強化していく。

(意見) 教育活動の基準3-1-9「業界のニーズに対応できる社会性もテーマに毎年各学年目標を定めている」というのは学生も一緒に話し合っているのか。1年生に業界のニーズが理解できるかという難しいのでは。

→(活用) 目標は学校が決めている。働くうえで、身だしなみや挨拶も含め最低限の基本的なことは守ろうということ、特別なことができるということではなく当たり前のことはいっしょにできるようなこと軸に提示している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
梶原 浩史	公益社団法人福岡県理学療法士会 医療法人原鶴温泉病院	H30年4月1日～H31年3月31日	企業委員・卒業生
北嶋 秀一	chanson coco yumi	H30年4月1日～H31年3月31日	企業委員・卒業生
小笹 和輝	医療法人向陽会 筑後川温泉病院	H30年4月1日～H31年3月31日	企業委員・卒業生
坂本 祐一	特定医療法人社団宗仁会 筑後吉井こころホスピタル	H30年4月1日～H31年3月31日	企業委員・卒業生
佐藤 志津子	福岡県作業療法士協会社会 医療法人天神会 古賀病院21	H30年4月1日～H31年3月31日	企業委員・卒業生
松木 絵李香	医療法人繁桜会 馬場病院	H30年4月1日～H31年3月31日	企業委員・卒業生

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) 平成30年7月公表

URL: <http://www.kurumereha.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、ホームページ上で積極的に情報提供を行うほか、学校関係者評価委員に対して、学校案内パンフレット等の広報的資料、カリキュラム等の教育活動に関する資料、学校自己評価結果等を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	○教育ポリシー ○久留リハ4つの強み
(2) 各学科等の教育	○カリキュラム ○年間スケジュール ○国家試験
(3) 教職員	○教員紹介 ○授業評価
(4) キャリア教育・実践的職業教育	○就職について ○医療法人立リハビリ学校
(5) 様々な教育活動・教育環境	○施設・設備案内 ○全国初のe-school授業 ○サークル活動
(6) 学生の生活支援	○学生寮・アパート
(7) 学生納付金・修学支援	○学費 ○学費分割プラン ○奨学金制度 ○入学特典
(8) 学校の財務	○貸貸対照表
(9) 学校評価	○学校自己評価 ○学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	○留学生入試/WFOT加盟校
(11) その他	

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.kurumereha.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			社会福祉概論	1. 現代社会における福祉制度の意義や理念 2. 福祉政策の構成要素や福祉政策と関連政策の関係 3. 基礎となる能力を養う	1年・通	60	4	○			○			○	
○			心理学	限られた時間の中でリハビリテーションの現場に対応できる心理学の基礎知識を体得する	1年・前	30	2	○			○				○
○			人間と生活	人間の心のあり方、「生きる」「死ぬ」の意味を学び、医療人としての素地を育むこと、『理学療法士・作業療法士になる』という動機付けを高めることを目標とする	1年・後	30	2	○			○				○
○			教育学	話す・聴く・読む・書くというコミュニケーションの基礎スキルを通して、心で繋がるコミュニケーション力を実践的に学ぶ	1年・後	30	2	○			○				○
○			PC学	PCの簡単な操作ができること MS-Wordを用いて簡単な文書を作成し印刷できること	1年・前	30	2	○			○				○
○			情報処理	エクセルを利用して表・グラフを作成 エクセルの機能を利用してデータ加工・編集・集計 エクセルの関数を利用して簡単な統計処理	1年・後	30	2	○			○				○
○			統計学	統計の基本的な考え方を理解し、表計算ソフトを利用して、目的に応じた表現方法を用いることができる またリハビリテーション分野での統計解析を行う	2年・前	30	2	○			○				○
○			保健体育	関節の運動やストレッチの正しい行い方を把握し、体の正しい使い方を実際に行う チームメイトとのチームワークを大事にコミュニケーションを取れる	1年・通	60	2	○			○				○
○			英語	実践に必要な英文法を理解する。副教材を通じて英語のリズム、発音などの基礎を学ぶ。医療現場でのコミュニケーションの基礎を作る	1年・前	30	2	○			○				○
○			医学英語	実践に必要な英文法の体系を一通り理解する 医学系の英文に親しむ 医療現場での基本的なコミュニケーションの基礎を作る	1年・後	30	2	○			○				○
○			運動系統学Ⅰ	作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する	1年・前	45	3	○			○			○	
○			運動系統学Ⅱ	作業療法士の基礎となる解剖・生理学を骨、関節、靭帯、筋を系統立てて運動器として理解する	1年・後	45	3	○			○			○	

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			神経系統学Ⅰ	神経系・中枢系に関連する構造・各部の名称を覚え理解する 神経系・中枢系に関連する各部機能・働きを覚え理解する	1年・後	45	3	○			○		○		
○			臓器系統学Ⅰ	生理学分野の植物系機能の基礎となる生命体の構造と機能の基本を理解し、身体の特徴を具体的に理解することを目標とする	1年・前	45	3	○			○		○		
○			臓器系統学Ⅱ	臓器の概要を説明できる 各臓器の構造と機能を説明できる	1年・後	45	3	○			○		○		
○			運動系統学Ⅰ 演習	上肢・体幹を構成する運動器を身体運動の観点から統合することが出来る人体の運動器の構造と機能、運動力学、さらに身体運動の基礎的知識を身につける	2年・前	45	2		○		○		○		
○			運動系統学Ⅱ 演習	上肢・体幹を構成する運動器を身体運動の観点から統合することが出来る 人体の運動器の構造と機能、運動力学、さらに身体運動の基礎的知識を身につける	2年・後	45	2		○		○		○		
○			神経系統学Ⅰ 演習	神経系と感覚器系に関する各部位の構造と機能を理解する 関連する疾患をイメージする	2年・前	45	2		○		○		○		
○			神経系統学Ⅱ 演習	3年次の疾患学につながる神経系の解剖、生理、病態学を学ぶ。神経系の解剖、生理、病態を復習し、疾患の理解につなげる。	2年・後	45	2		○		○		○		
○			臓器系統学Ⅰ 演習	臓器系統学Ⅰ・Ⅱの知識を再確認しさらに深い知識とする。国家試験で回答できるレベルを到達点とする。病理学・内科学・整形外科学・神経内科学の基礎となる。	2年・前	45	2		○		○		○		
○			臓器系統学Ⅱ 演習	臓器系統学Ⅰ・Ⅱの知識を再確認しさらに深い知識とする。国家試験を解答できるレベルを到達点とする。内科学・整形外科学・神経内科学の基礎となる。	2年・後	45	2		○		○		○		
○			生理学演習	臨床実習に直結する内容を精査し解説する。心電図、スパイロメーター、筋電図などの実習は必須項目で臨床実習に直結するため機器の使い方やその意味を理解する。	1年・後	30	1		○		○		○		
○			病理学	疾病の原因とその成り立ちを解明していくために、病理学で用いられる専門用語を理解する 教科書の学習目標を理解する	1年・後	30	2	○			○		○		
○			臨床心理学	心理構造を理解し、2年次の精神疾患の理解へつなげる 国家試験に必要な知識の獲得	1年・後	30	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			内科学Ⅰ	作業療法に必要な内科学の基礎と臨床の習得 内科疾患の成り立ちや診断基準を、臓器別あるいは病因論別に修得	2年・前	30	2	○			○			○	
○			内科学Ⅱ	作業療法に必要な内科学の基礎と臨床の習得 内科疾患の成り立ちや診断基準を、臓器別あるいは病因論別に習得	2年・後	30	2	○			○			○	
○			整形外科Ⅰ	作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床の習得 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得	2年・前	30	2	○			○			○	
○			整形外科Ⅱ	作業療法に必要な整形外科の基礎と臨床の習得 国家試験に必要・最低限の知識を確実に習得	2年・後	30	2	○			○			○	
○			神経内科学Ⅰ	神経内科学の基礎と臨床に精通する	2年・前	30	2	○			○			○	
○			神経内科学Ⅱ	神経内科学の基礎と臨床に精通する	2年・後	30	2	○			○			○	
○			精神医学Ⅰ	精神疾患に見られる症状を説明できる 特徴的疾患について症状の視点から説明できる	2年・前	45	2	○			○			○	
○			精神医学Ⅱ	精神疾患に見られる症状を説明できる 特徴的疾患について症状の視点から説明できる	2年・後	45	2	○			○			○	
○			人間発達学	基本的な発達を理解する	2年・前	30	2	○			○			○	
○			小児科学	国家試験に出題される項目に沿って学習し習得する リハビリテーションの現場において必要な小児科学の一般知識を習得する	2年・後	30	2	○			○			○	○
○			リハビリテーション概論	リハビリテーションとは何か、その中での作業療法士の役割や、リハビリテーションマインドを培い、チーム医療としてのリハビリテーション医療が理解できる	1年・前	30	2	○			○			○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーションとは何か、その中での作業療法士の役割や、リハビリテーションマインドを培い、チーム医療としてのリハビリテーション医療が理解できる	1年・後	30	2	○			○			○	



授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保健医療福祉の制度	国の在り方の変化において、作業療法士の在り方も大きく影響を受ける事が予想されるため何を考えどのように職責を果たせば良いのか考える	3年・前	30	2	○			○		○		
○			理学療法士論	理学療法士の役割を理解し説明できる 物理療法について理解し説明できる 下肢疾患に対する運動療法などを理解し説明できる	2年・前	30	1	○			○		○		
○			作業療法概論Ⅰ	作業の意味や基本的な役割を述べる事が出来る 働く分野とそれぞれの分野での役割を述べる事が出来る 作業療法の歴史について述べる事が出来る	1年・前	30	2	○			○		○		
○			作業療法概論Ⅱ	基本的な体の使い方、介助の仕方を習得する。バイタルサインの基礎を学ぶ 作業療法士としての基本的な介助の仕方を学び実習へ繋げる	1年・後	30	2	○			○		○		
○			作業療法概論演習	評価の意義や目的を知る 評価測定技術を習得し、測定ができるようになる 評価についての知識を習得する	2年・前	45	2		○		○		○		
○			作業療法評価学	徒手筋力検査（MMT）を実技を通じて身につける MMTを通して筋の起始停止、神経支配、走行等を身につける	2年・後	45	3	○			○		○		
○			作業療法評価学実習	情報収集の意義、目的を知りレポートを書けるようになる 評価の列挙、問題点、Goalの考え方について知る 事例を通して評価の流れを理解する	3年・通	90	2	○			○		○		
○			精神科評価学	精神科評価とは何かを学ぶ 観察の重要性とその考え方について学ぶ 各種の評価法について基本的な知識を述べることができる	3年・前	30	2	○			○		○		
○			基礎作業学	体験した作業について作業分析を行い特徴を知る 体験した作業について作業分析という形でレポートにまとめる 基礎作業分野の国家試験を解く	3年・通	90	3	○			○		○		
○			基礎作業学演習Ⅰ	作業の種目を経験し後期の作業分析への足掛かりとする 作業療法士が視点を置く作業に対しての意味を理解し分析項目がわかる	1年・通	90	3		○		○		○		
○			基礎作業学演習Ⅱ	作業の基本的・応用的・社会的な特性を知り、理解する人間作業モデル及びCOPM, AMPSの理論を知る 様々な作業を通し、臨床の場で応用できるようになる	2年・通	60	2		○		○		○		
○			身体障害作業療法Ⅰ	中枢神経疾患における作業療法の意味や治療的介入法の概要が把握できる 各疾患の症状や病態とそれに対する禁忌や留意点を説明できる	3年・前	45	2	○			○		○		

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			身体障害 作業療法Ⅱ	整形外科系疾患における各疾患の症状や病態とそれに対する禁忌や留意点、治療的介入の概要の把握。運動学を基盤とした正常動作から異常な動作までの動作分析	3年・後	45	2	○			○		○		
○			高次脳機能 障害作業療法	高次脳機能障害の症状理解と評価・訓練の実際を知る。	3年・前	30	2	○			○			○	
○			精神障害 作業療法	精神障害分野における作業療法の役割について学ぶ力をつける。精神障害者への作業療法の実際について学び具体的アプローチについて考える。	3年・通	90	3	○			○			○	
○			発達障害 作業療法	粗大運動や巧緻動作の発達を学習する中で姿勢と運動の関係や運動に関する基礎知識を養う。	3年・通	60	2	○			○			○	
○			高齢期 作業療法	高齢社会を理解し、問題点を述べるができる。高齢者の特徴を理解し、問題点を述べるができる。高齢期作業療法の実践内容を述べるができる。	3年・前	30	2	○			○			○	
○			日常生活活動	ADLの概念を知りADLの基礎を学ぶ。更に、ADLに関わる問題を解決する手段を学び、患者様へ最高のQOLの獲得を援助できる。	3年・通	90	3	○			○			○	
○			義肢装具学	義肢装具の理解・義肢装具の種類、疾患との関係を理解する。	3年・通	60	4	○			○			○	
○			臨床作業療法	実際に症例を評価しゴール設定までの考え方、評価レポートの作成方法を学ぶ。臨床実習(評価)に必要な知識、技術を身につける。	3年・後	45	2	○			○			○	
○			地域リハビリ テーション	授業を通じて地域リハビリテーションの必要性について学ぶ。地域リハの現場で理学療法士が活躍する場面を知る。	3年・前	30	2	○			○			○	
○			生活環境論	人を取り囲む「環境」について。住環境整備を行うための基礎的知識。住環境整備を行う為に必要な制度。症例に適した住環境整備を考える。	3年・前	30	1	○			○			○	
○			介護実習	適切なコミュニケーションや報告・連絡・相談、積極的な行動や自主的な学習ができる。学生としての心構え、考え方や技術を身につける。	2年・前	45	1			○		○		○	
○			臨床実習Ⅰ	チーム医療の一員として組織の中で連携を図りながら実際の業務を学び実習指導者のもと学外施設で実施する。	3年・後	135	3			○		○		○	○

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床実習Ⅱ	必要な知識・技術・応用的能力を展開させることを目的とし、チーム医療の一員として連携を図りながら実際の業務を学び実習指導者のもと学外施設で実施する。	4年・通	810	18			○		○		○	○
	○		作業療法セミナー	国家試験に必要な知識をグループワークを通して確認し、身につける	4年・通	120	8	○			○		○		
	○		体験学習	臨床実習に向けた予備学習とする。実際のリハビリテーション場面を見学し、概論等で学んだ知識の再確認をする。社会性や自己の課題を客観的にとらえる。	1年・通	15	1			○		○	○		
合計					63 科目		3,585 単位時間 (158 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
4年の修業年限以上を在学し、履修すべき全科目の認定および卒業試験に合格して課程修了を認められた者は卒業認定会議を経て学院長が卒業を認定する。履修については、出席が当該学年において各科目の履修すべき授業時数の3分の2を満たしていること、また履修すべき科目の修得認定試験等に合格し、認定を行う。演習・実習科目は、演習・実習時の履修状況を評価し当該科目の認定を行う。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。